

増大特集 神経疾患と感染症 update

企画 本誌編集委員会

特集の意図

近年の神経感染症に関するトピックとして細菌性髄膜炎の遺伝子診断、ナタリズマブとPML、子宮頸がんワクチンによる神経合併症などが挙げられる。神経感染症の診療・治療の進歩とともに感染症という観点からみた免疫性神経疾患の現状までを体系的に整理する。

特集の構成

1. 中枢神経感染症の診断——臨床における問題点と今後の課題（森田昭彦）急性脳炎や髄膜炎には少しでも早い診断，加療が求められる。本項では，中枢神経感染症を疑い初期治療を開始するために重要な神経学的診断および，病因確定診断に用いる各種検査について解説する。

2. 細菌性髄膜炎の現状（亀井 聡）2014年に全面改訂された『細菌性髄膜炎診療ガイドライン2014』の内容に触れながら，診断・治療戦略を中心に解説する。

3. 中枢神経系感染症の遺伝子診断（大楠清文）病原体を確定するのに欠かせない遺伝子解析だが，万能視せず，あくまで検査ツールの1つとして認識し，日常検査や病歴とうまく組み合わせて活用することが重要である。そこで遺伝子検査の原理を解説し，実際の解析事例を紹介する。

4. 中枢神経系感染症における画像診断の役割（横田 元，他）多数の症例画像を提示しながら，脳実質内，脳実質外，脊髄と病変部位別に各疾患の特徴と病変を捉えるために最適なモダリティについて解説する。

5. 子宮頸がんワクチンの副反応と神経障害（池田修一）社会問題となっている子宮頸がんワクチン接種後の副反応について，自験76例の診察に基づいて臨床像，病態を考察し，末梢性交感神経障害との関連性を指摘する。

6. HTLV-I 関連脊髄症（中村龍文，他）HTLV-I 関連脊髄症（HAM）の発見から約30年。発症機序の核心部分はいまだブラックボックスであるが，これまでの研究の進歩は著しい。30年のHAM研究の成果をレビューし，現在進みつつある治療の試みも含め概説する。

7. インフルエンザ脳症 (鳥巢浩幸, 他) インフルエンザ脳症は, 感染症関連の急性脳症の中で頻度が高く代表的な疾患で, 2009 年のパンデミックにおいて成人でも発症することが明らかになり, 注目を集めている。病態理解に必要な 3 つの視点「サイトカインストーム」「代謝異常」「興奮毒性」から解説する。

8. ギラン・バレー症候群と先行感染 — 日常診療のエッセンス (古賀道明) ギラン・バレー症候群は感染症が契機となって発症することで知られるが, その先行感染が何であったか 1 例ごとに同定することが, 臨床的にも研究的にも重要となる。先行した感染症別に病態・臨床像がどのように異なるか解説したうえで, 著者が提唱する先行感染を同定するための判定基準を紹介する。

9. 感染症と免疫性神経疾患 — 多発性硬化症・視神経脊髄炎と EB ウイルス (森雅裕) 多発性硬化症, 視神経脊髄炎の発症と EB ウイルス感染の関与についてこれまでの研究をレビューする。特に, シェーグレン症候群が EB ウイルスと視神経脊髄炎の両者に関与することを手がかりに, 著者が行った検討について解説する。

10. ナタリズマブ誘発性 PML の病理 (神田 隆) 多発性硬化症治療薬・ナタリズマブ投与例に発症する進行性多巣性白質脳症 (PML) の海外における剖検, 定位脳生検病理の報告をまとめ, 考察を加える。そのうえで, 参考例としてリツキシマブ投与により発症した PML 自験例の病理所見を紹介する。

11. 中枢神経系日和見感染症の病理 (新宅雅幸) 中枢神経系をおかす日和見感染症の病理組織像を豊富な写真で系統的, 網羅的に紹介し, 詳細な解説を加える。

12. 同種造血幹細胞移植における HHV-6 脳炎 (緒方正男) 潜伏感染状態にある HHV-6 は同種造血幹細胞の移植後に高頻度に再活性化し, 肺炎や肝炎などとともに脳炎を発症させる。HHV-6 脳炎は予後不良で, 生存例でも後遺症として記憶障害を認め, 社会生活に支障をきたすが, 治療法も予防法も確立されていない。これまでの報告をまとめ, 今後の課題を考察する。

13. 単純ヘルペス脳炎 update (黒田 宙) 単純ヘルペス脳炎の病態, 診断, 治療について, 近年の知見を加味して概説する。特に, 宿主免疫反応による炎症性神経障害, 自己免疫性辺縁系脳炎との鑑別のポイント, アシクロビル投与中止の基準などに照準を合わせた。

14. プリオン病の治療動向 (坪井義夫) プリオン病の臨床像と診断方法を概説したのち, まだ有効な手立てのない治療法について, 動物実験で効果が認められた 3 種類の薬, キナクリン, ペントサンポリサルフェート, ドキシサイクリンを解説する。

15. HIV 感染症治療の進歩 (松井佑亮, 他) HIV 感染症治療の歴史を整理し, 最新の抗 HIV 薬の選択・組合せの方法, 導入のタイミングについて詳しく解説する。また, 治療法の進歩により生命予後が改善したことで, 今後増加が見込まれる HIV 関連神経認知障害 (HAND) についても紹介する。